

収蔵館ニュース

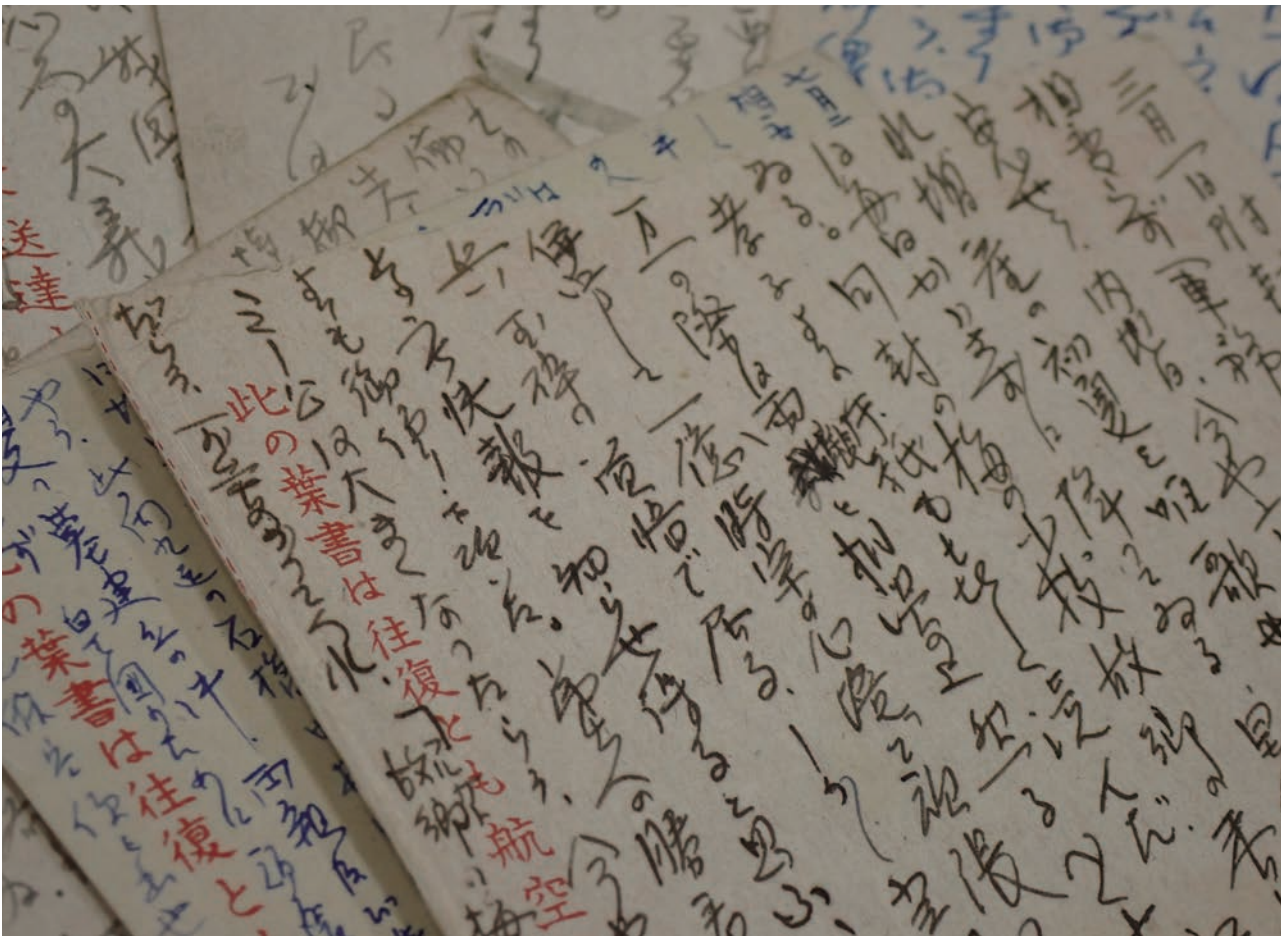
第20号
(改題通算46号)

K U R U M E C I T Y

2024.3

● CONTENTS

- ・新収蔵資料紹介
- ・六ツ門図書館展示コーナー
- ・守り、伝える
- ・活かし、伝える
- ・トピックス
「久留米藩御用絵師の絵画を展示 ～展示担当者より～」



軍事郵便の一部。文面には「玉砕の覚悟で居る」(写真中央)のほか、「万一の際は両親と相談の上なるべく計れ」、「しかし小生緬甸国境に関する限り心配するな、そのうち快報を知らせ得ると思ふ」などがある。自身の状況や家族への思いが綴られている。

新収蔵資料紹介

戦地からの便り

文字に込められた思い

「宮原美奈子氏寄贈資料」

田主丸町出身の軍医・西原肇氏

に関する資料群です。その足跡が、文書・記録・写真・道具という様々な形で残され、彼とその家族が経験した戦争の実態を伝えています。総数73点のうち、戦地からの軍事郵便が多数を占めています。

肇氏は、昭和18年(1943)に、ビルマ第一一八兵站病院(へいたん)に軍医として従事し、昭和20年(1945)5月にビルマ・シタン川付近で亡くなりました。

戦地から妻に宛てた46通の手紙には、限られた紙幅に、表現に規制があるなかで、自身の状況や家族への思いが、時に絵や俳句を添えて小さな文字で隙間なく綴られています。

軍事郵便は、戦地と家族をつなぐ唯一のやり取りで、生存を伝える証でもありました。思いのこもったこれらの手紙は、家族によって大切に保管され、この度久留米市に寄贈されました。

新収蔵資料紹介

2023.2
▼
2024.1

久留米藩士伊福家の什書

武家としての正当なる証

「伊福家資料（第2次）」

伊福家は、もとは筑前福岡藩の家老栗山大膳利章の家臣でした。黒田騒動で栗山家が寛永10年（1633）に失脚すると、伊福市太夫が初代久留米藩主有馬豊氏に召し出されました。市太夫を初代として、勝秋、勝之、勝郷、勝従、勝彬、勝壽、勝義、章雄と続き、亮足の代に明治維新を迎えます。10代にわたって、久留米藩士として仕えました。

本資料群は、江戸時代前期から明治時代にかけての古文書で構成され、総数59点（27通、23冊、9枚）を数えます。

このうち最も古いものは、寛永8年（1631）2月付けの宛行状です。内容は、栗山利章から伊福市太夫に対し、100石を加増するといふもので、知行高の合計は記されていません。



栗山大膳知行宛行状
本文に「為加増百石之地宛行畢、全可令領知者也」とある

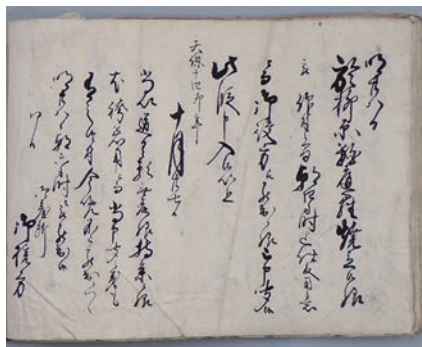
その後、市太夫は250石で豊氏に出仕し、天草・島原の乱（1637〜8）の戦功で加増され、計300石となります。さらに、勝郷の代の寛保元年（1741）、70石を加増されました。こうした知行宛行の文書は、2代藩主忠頼から9代頼徳にかけてのものが伝わります。

家系図や藩主書状など、武家としての正当性を示す什書が良く伝わり、江戸時代を通して久留米藩士・伊福家の由緒を辿ることができる貴重な資料群です。

御用菓子司「翠屋主水」相伝 藩主好みの菓子製法

「松木家資料（第3次）」

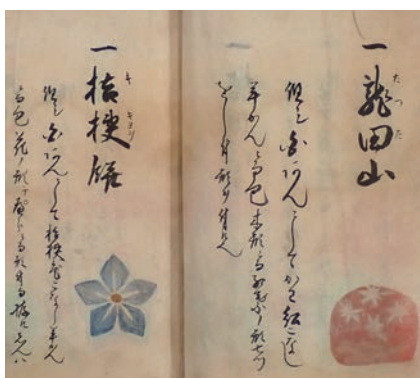
江戸時代、久留米城下の両替町（現城南町）で久留米藩主有馬家の御用菓子司を務めた松木家（屋号は「翠屋主水」）に伝来した資料群です。第1・2次（平成24・29年度）では菓子業の道具等32点、今回の第3次では古文書を中心とする8点（7冊及び1通）の寄贈を受けました。



御用被仰付一件御書渡之写
（文中に「久留米城内の柳原で「粕庭羅」（カステイラ）を焼くように」とある）

「御用被仰付一件御書渡之写」は安永7（1778）〜明治15年（1882）の文書を写してまとめたものです。家業修行道中の帯刀許可、「御用菓子司」看板の拝領、また、有馬家からの進物として、国元

では藩主菩提寺の梅林寺、江戸では徳川将軍家や他大名家に菓子を納めたことなどが記され、藩主御用司としての松木家の由緒をよく伝えています。



御菓子仕立之傳

「御菓子仕立之傳」には、さまざまな菓子について、色かたちが文字だけでなく鮮やかに描かれ、説明されています。また「萬御菓子控」という記録には、「千歳ずし」とついて「御このミは小豆あん也」と注記があり、11代藩主有馬頼咸の好みに応えようとする御用司の様子がうかがえます。

松木家資料の菓子業の道具と、文字や絵による記録をあわせてみると、江戸時代の菓子文化について、より詳しく知ることができます。

自由を見つめて

ドイツ兵捕虜が描いた風景画

「Paul Kawachi 氏」

コレクション（第2次）

第一次世界大戦中の大正3年（1914）、久留米にドイツ兵捕虜の収容所が置かれました。こうした歴史に興味をもった Paul Kawachi 氏は、かつての軍都久留米に関する資料を収集しています。令和3年度には、昭和20年（1945）に米国陸軍地図局が作成した久留米の地図が、第2次となる今回は、同局作成の佐賀の地図と、久留米俘虜収容所内でドイツ兵捕虜が描いた風景画5枚が寄贈されました。

当時の捕虜たちは、収容所においても娯楽やスポーツ活動を楽しむこと



寄贈された風景画5枚
3枚は日焼けした跡があり、日常的に飾られていたとみられる

ができました。風景画は、どれも大正5〜8年（1916〜19）の作で、水彩画と鉛筆画があります。収容所の敷地内から見た民家や、敷地内の一角を描いています。画面からは、季節感やその場の穏やかな雰囲気伝わってきます。

このうち、大正5年に制作されたものは、画面右下に「Kriegsgefangenenlager Kurume」（久留米俘虜収容所）、「Blick in die Freiheit」（大意：自由を見つめて、自由への眺望）という表記があります。久留米の捕虜には、普段の生活に大きな行動制限は設けられていないものの、この表記からは、異国の地に長期滞在せざるを得なかった作者が帰国を望む心境がうかがえます。



大正5年作の風景画
「Kriegsgefangenenlager Kurume」、「Blick in die Freiheit」の表記が見える

巡見使を迎えた庄屋の記録

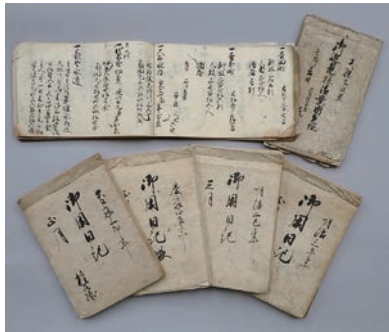
久留米藩の情勢を今に伝える

「権藤家資料」

権藤家は永禄年間（1558〜1570）に、大友宗麟によって竹野郡に封ぜられた権藤隼人正藤原永常を祖とし、江戸時代には下古賀村（現田主丸町）、菅村（現うきは市吉井町）の庄屋職を務めました。

平成7年度に同家より、久留米藩政や郡方関連・諸家系譜といった旧庄屋の文書など、総数124点の寄託を受けていましたが、令和5年度に寄贈となりました。

その一つである「巡見上使案内庄屋手鑑」（左下写真）は、権藤家7代永静が延享3年（1746）の幕府巡見について記録したものです。

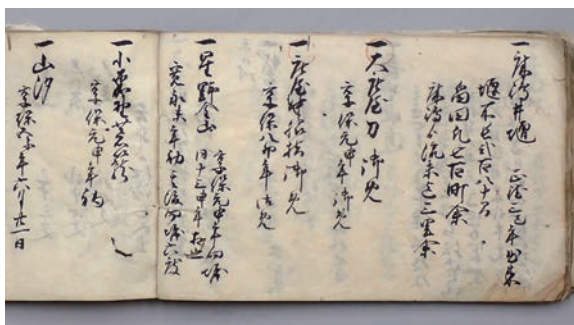


権藤家資料の一部

巡見使の名（徳永平兵衛・夏目藤右衛門・小笠原内匠）や、吉井町から各町村までの距離、村々での出来事が詳しく記されています。

江戸幕府は將軍の代替わりの際、全国各地へ巡見使を派遣し、各藩の政治情勢や領民の暮らしぶりを視察しました。その巡見使を迎える準備と応接に当たったのが庄屋など村役人でした。

左の写真からは、筑後川から取水した床嶋井堰が正徳3年（1713）にできたこと、山汐（土石流）が享保5年（1720）6月21日に発生したことが分かります。



「巡見上使案内庄屋手鑑」
1カ条目に床嶋井堰について、6カ条目に山汐についての記述がある

水魔・各地で猛り狂う 新聞記事が伝える「28水」

「昭和28年水害」

新聞記事スクラップ

昭和28年（1953）6月25日から29日にかけて、九州北部地方を中心に集中豪雨による水害が発生し、各地に甚大な被害をもたらしました。この水害は現在「28水」と呼ばれ、未曾有の大水害として語り継がれています。

本資料は久留米市や筑後川に関する記事を中心にしつつ、遠賀川や室見川、佐賀市や大分県日田市に関するものも収めています。写真とともに「水魔むざんの足跡」「狂乱の『水魔』なお去らず」といった見出しが、当時の衝撃や緊迫感を伝えます。



昭和28年水害新聞記事スクラップ（表紙）

少年飛行兵を送り出す言葉 その思いと共に戦地へ

「出征旗」

本資料は、13歳の少年が陸軍少年飛行兵として出征する際に寄せ書きされた出征旗です。少年の父親のほか、卒業した尋常小学校の先生や同級生などから寄せ書きされており、少年飛行兵を鼓舞する「制空」「空之神兵」といった言葉が並んでいます。

当時、日本兵として出征する際には、その家族や友人などが「武運長久」の思いを込め日の丸に寄せ書きし、徴収された兵士はこれを大事に抱えて出征していきました。



親族や恩師、同級生からの激励の言葉が並ぶ

ビルマ戦線からの便り 戦地と銃後 思いは一つ

「河北家資料（第5次）」

本資料は、昭和18年（1943）

に、ビルマ派遣菊八九〇八部隊吉開隊所属の松田弘之氏から、篠山国民学校4年赤組の河北明子、小城啓子、藤井千春、下村澄子の4名宛に送られた軍事郵便はがきです。学校から、慰問として戦地に手紙や品物を送ったことへのお礼に返信されたもので、河北家で大切に保管されていました。

差出人の住所にある「ビルマ派遣



ビルマからの便り

菊八九〇八部隊」は、久留米で編成された第十八師団の所属部隊です。第十八師団は精鋭部隊として知られ、通称名「菊」が与えられていました。はがきが出された昭和18年頃のビルマの戦況は過酷でした。翌19年には、凄惨なことで有名なインパール作戦が展開されています。はがきには、仏塔、植物、ソウやトラなどの動物のイラストを織り交ぜて、赴任地の様子が書かれています。最後に、子どもたちへのメッセージが先生や父母の絵を入れて綴られ、「サヨウナラ」の文字とイラストで締めくくられています。

海を渡った写真
撮影された久留米市へ

「キセキ遺留品

返還プロジェクト収集資料」

NPO法人キセキ遺留品返還プロジェクト（代表：ジャガード千津子氏）は、人道主義に基づく活動をするアメリカの非営利団体です。

旧日本軍人の遺留品を日米有志が私財を投じて収集し、日本の家族等に無償で返還するボランティア活動を1971年から行っています。2020年にイリノイ州で米国NPO法人として登録されました。

同法人が、インターネットオークションで落札した、大正昭和戦前



上官の視察送迎の様子
門柱にみえる「工兵第十八大隊」は、現在の久留米大学御井学舎付近にあった

期の日本軍に関する写真等80点が本市に寄贈されました。

内容は、記念写真、上官視察や、軍事訓練・橋架設訓練などの活動の様子、軍施設、高良大社、高良山御手洗橋や篠山神社が写る写真などです。多くは工兵第十八大隊に関するもので、軍服の襟章に、工兵第十八大隊に所属していることを表す「18」が見える写真もあります。

工兵第十八大隊は、旧日本陸軍の兵科の一つで、明治42年（1909）に久留米で創設され、終戦とともに解散しました。戦場でも主に交通・通信・架橋・爆破・照明など、作戦遂行上必要な技術面を担当していました。



山川町神代における歩兵隊との連合演習の様子
隊列を組んだ兵士と馬、演習用の小船が見える

新収蔵資料一覧

日付	資料名	点数	氏名	区分
2・3	昭和28年水害新聞記事スクラップ	1	高田 澤子	寄贈
3・27	日立パーソナルコンピュータH2	1	—	採集
3・31	権藤彌榮家資料	124	権藤 彌榮	寄贈
3・31	荒巻羊三郎関係資料	4	森山 優	寄贈
3・31	辻(旧姓金原)美禰子家資料(第3次)	3	辻 美禰子	寄贈
3・31	出征旗	5	室園 哲也	寄贈
4・10	古川家資料(第4次)	1	古川 恒行	寄贈
4・27	松木家資料(第3次)	8	松木 貞次	寄贈
4・27	近代絵葉書六枚	6	藤本 淑子	寄贈
5・9	河原家資料(第2次)	2	河原 俊治	寄贈
5・24	Paul Kawachi氏コレクション(第2次)	6	Paul Kawachi	寄贈
5・29	河北家資料(第5次)	1	河北 宣正	寄贈
6・7	伊福家資料(第2次)	59	伊福 雅	寄贈
6・16	けん玉	1	三好 愛治郎	寄贈
6・16	有馬頼寧書「實踐躬行」	1	光興産株式会社	寄贈
6・16	内野家旧蔵資料	65	永野 健康	寄贈
7・7	豊福家資料	2	匿名	寄贈
10・30	山本義人氏旧蔵資料	69	高橋 明子	寄贈
11・6	扱心一流本心巻	1	匿名	寄贈
11・6	船曳鐵門和歌短冊二枚	2	田堀 雅尚	寄贈
11・6	青木照夫家資料(第6次)	31	青木 照夫	寄贈
11・29	宮原美奈子氏寄贈資料	73	宮原 美奈子	寄贈
11・29	キセキ遺留品返還プロジェクト収集資料	80	ジャガード千津子	寄贈

六ツ門図書館展示コーナー

〒830・0031 久留米市六ツ門町3-11
 くるめりあ六ツ門5階
 TEL.. 0942・277・9288
 FAX.. 0942・277・7288

時代も内容もさまざま 新たな資料を毎月初公開

久留米市が新たに収蔵した資料をいち早く公開するため、令和4年度に開始した「新収蔵資料紹介コーナー」。令和5年度もできるだけ多くの資料をご覧いただけるよう、月替わりで展示を行いました。公開の際は、その資料群の来歴や

特徴をよく示すものを選んでいきます。また、つづじが見頃を迎える4月は久留米つづじ、終戦記念日にあわせて8月は戦争関係資料というように、時節に合わせてテーマを設定することもあります。

各月のテーマは左の表のとおりです。近代の美術工芸品や書籍、昭和の道具など、多様な資料を紹介しました。

月	テーマ
4月	久留米つづじ、世界へ ～近代の品種改良と販路拡大～
5月	西原柳雨関連資料 ～原稿や校正からたどる古川柳研究家の歩み～
6月	水魔・各地で猛り狂う ～昭和28年水害新聞記事スクラップ～
7月	描き、創り、奏でる ～マルチアーティスト・古川潤二～
8月	戦地へ ～少年飛行兵の出征旗～
9月	絵葉書にみる近代久留米 ～観光名所・陸軍特別大演習～
10月	実践 躬行（自ら行動せよ） ～政治家・有馬頼寧の書～
11月	自由への眺望 ～ドイツ兵捕虜が描いた風景画～
12月	戦後日本の学校と組合 ～高校教員の蔵書から～
1月	昭和戦後のボードゲーム ～新行軍将棋～
2月	問題用紙も文集も、手書き印刷 ～謄写版（ガリ版）～
3月	歴史資料の来歴を語る ～内野家旧蔵資料～

展示替えの予定については、随時、市ホームページでお知らせしています。

むかしのくらし展 暮らしを変えた電化製品

会期：令和5年12月23日（土）
 ～令和6年3月24日（日）

「むかしのくらし展」では、市が収蔵するさまざまな昔の道具を中心に展示し、市民の方に紹介しています。令和5年度は、「暮らしを変えた電化製品」と題して行いました。昭和30年代、高度経済成長期と呼ばれた時期に「三種の神器」と呼ばれ一気に普及したテレビ・冷蔵庫・洗濯機を中心に、さまざまな電化製品を展示しました。

また、思い出深い道具を眺めながら、昔のことを語り合うことは、「回想法」という心理療法のひとつとして知られています。若かりし頃や、子どもの頃、また、今は亡き忘れられない人の思い出に浸ることは、疲れた脳に安らぎを与える効果があると言われています。



令和5年度むかしのくらし展 三種の神器（テレビ・冷蔵庫・洗濯機）が人々の生活を変えた

来場者からは、「家に電気洗濯機がやって来た日に、母がとても喜んでいた」「深夜まで受験勉強をしながらラジオでオールナイトニッポンの糸井五郎を聴いていた」などの話が聞かれました。

見学や体験、撮影もOK 昭和のおうちの楽しみ方

《昭和のおうち》

六ツ門図書館展示コーナーの一角には、昭和30年代頃の家を再現した「昭和のおうち」があります。ここでは、テレビや黒電話、タンス、ミシン、柱時計など、実際に家庭で使用われていた道具を展示しています。当時を知る来場者は、見学しながら思い出に浸っているようです。

休日には、若い親子連れの来場者が昭和のおうちをスマートフォンで撮影している姿をよく見かけます。なかには、「祖母の家にあった丸いちゃぶ台や黒電話を思い出したと、家族に写真を送信する人もいます。



昭和のおうち

時折、お茶の間に上がってもらい、スタッフが記念撮影をすると、とても喜ばれます。

《小学生がワクワクする社会科見学》
小学3年生になると、歴史を学ぶきっかけとして「昔の道具とくらし」を学習します。その体験学習の場として昭和のおうちが活用されています。文化財サポーターが道具を紹介しながら、自らが小学生だった頃の体験を語ってくれます。

先生方からは、「子どもたちにとつて大変新鮮な話で、グイグイ引き込まれた」「子どもたちが昔の照明の明るさを体感し、学びを深められた」など、貴重な学びの場として評価を得ています。



学校見学での体験学習

六ツ門だより

令和5年(2023)は、大正12年(1923)9月1日に関東大震災が発生してから100年にあたります。この節目に、震災に関する資料を展示しました。

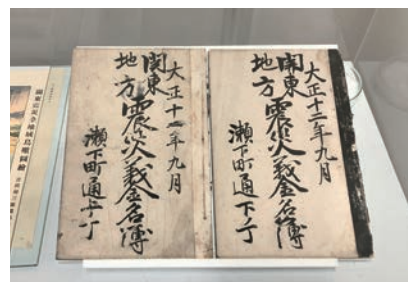
筆者は、関東大震災を本の中の遠い出来事のように感じていました。しかし、近年、毎年のように水害などの災害が身近に起こる中、100年の節目とのニュースを見て、久留米市にも関連資料があれば、災害への備えを呼び掛ける機会として紹介したいと思うに至りました。

収蔵資料のデータベースを「関東」「震災」のキーワードで検索すると、約20点が登録されていました。雑誌などのほかに、市内瀬下町の義捐金名簿、現在の市役所近くで開かれたチャリティーコンサートの記念写真、そして、久留米から東京に送られた、知人や自らの孫、生徒の無事を喜ぶ手紙もあることが分かりました。義捐金名簿には「9月8日納入」との日付が見られ、100年前の九州・久留米でも、発生から数日後には罹災者支援が呼び掛けられていたとうかがえます。

関東大震災に際して、行動を起こしていた人たちがいた。もしかしたら、私の先祖も震災を知って被災地を案じていたかもしれない。資料を確認しながら、関東大震災が遠い出来事とは思えなくなりました。

この年明けには、大規模な地震が起きました。いつでもどこでも、誰でも、被災者になる可能性があります。今一度、過去の災害を知り、日頃の備えを家族と確認しようと、筆者自身、思っています。

ミニテーマ展示「関東大震災100年—久留米市文化財収蔵資料から」の解説シートは、久留米市HPで「関東大震災100年」と検索、または下のQRコードを読み取るとご覧いただけます。



瀬下町 関東地方震災義金名簿





筑後川遺産

城島酒蔵

ものがたり

- 城島の酒蔵・田主丸の祭り -

令和5年(2023)
9月23日(土) 全席日
12月10日(日)

入場無料

〈メインストーリー〉

良質な米と豊かな水に恵まれた城島では、「東の灘、西の城島」と称されるほど酒造りが盛んです。

江戸時代に始まった酒造りは、明治になると販路拡大のため、地元杜氏の養成や三瀧酒造研究所を開設するなど品種改良に取り組みました。そして、試行錯誤の末「暖地軟水仕込み」を確立し、城島独自の酒造技術の普及に成功しています。蔵元の多くは、そこで生み出した財を地域のインフラ整備や人材育成に使いました。

酒造りの発展が、城島の地域産業（農業、瓦造、木工業）や文化芸術を育て、酒造りがまちづくりにつながり、今でも見事な葺の酒蔵や酒造り関係の産業遺産が多く残されています。

団体：久留米市西部ツーリズム協議会

企画展

筑後川遺産

「城島の酒蔵・田主丸の祭り」

令和5年(2023) 9月23日(土) ~ 12月10日(日)

久留米市立六ツ門図書館展示コーナー

企画展「筑後川遺産・城島の酒蔵・田主丸の祭り」

令和5年3月31日に初めて「筑後川遺産」登録を行った「城島酒蔵ものがたり」と「田主丸・祭りの賑わう里」地域をつなぐSDGsを、実物資料や関連パネルにより紹介。

会期 令和5年9月23日(土・祝) ~ 12月10日(日) 10時~17時
会場 六ツ門図書館展示コーナー

●筑後川遺産とは

久留米市内には、悠久なる大河筑後川の恩恵に育まれた歴史遺産(文化財)が数多く広がっており、それぞれの遺産に歴史や文化を背景とする物語があります。その様々な物語



筑後川遺産

田主丸・祭りの賑わう里

地域をつなぐSDGs

〈メインストーリー〉

田主丸は7km四方の狭い範囲に、耳納連山の山辺から筑後川の水辺まで変化に富んだ自然と豊かな田畑が広がります。そのような環境のもと、年間200を超える祭り（神事や伝統行事）が、自然・産業・地域社会に支えられ受け継がれています。日本が育ててきた伝統的なSDGsと言える祭りが田主丸には集中して引き継がれており、ほかには代えられない価値を有しています。

〈サブストーリー〉

- ・夜渡よど ・厄除け風止めやくよめ ・町祝い（糸びす様）どうごもり ・神迎いの堂籠り
- ・獅子舞と獅子打ち
- ・虫追い祭

団体：田主丸・未来創造会議

でつながれた歴史遺産の関連が「筑後川遺産」です。

●筑後川遺産登録制度とは

市内に所在する固有の歴史的背景（ストーリー）で関連付けられた歴史遺産のまとまりを「筑後川遺産」として登録するものです。地域や行政など、多様な人たちが参加して、歴史遺産の保存・活用に取り組むために創設しました。この制度は令和3年度にスタートしました。

●初登録！2件の筑後川遺産

令和4年度に、久留米市西部ツーリズム協議会および田主丸・未来創造会議から、それぞれ「筑後川遺産」の登録申請が提出されました。これは、有識者からなる久留米市文化財保存活用地域計画協議会により審査され、久留米市の歴史文化の特徴を表し、その価値が市民に共有できるものであると認められました。そして、令和5年3月31日に「城島酒蔵ものがたり」と「田主丸・祭りの賑わう里」地域をつなぐSDGs」の2件が、筑後川遺産に初登録されました。

守り、伝える

4人の久留米藩主に仕えた 家老の肖像を修理

令和4年度、有馬照長の肖像画の修理を行いました。照長は、8代有馬頼貴から11代頼咸までの4人の藩主に仕え、藩士や領民の尊敬を集めた名家老と伝わります。



修理前の表装
虫食い穴が見受けられる



修理後の様子
元の素材を再利用して掛幅装に仕立て直した

の本紙に虫食いの穴が多数発生していました。本紙にはシミも複数あり、本紙を補強するための裏打ち紙は、糊の浮きやはがれが確認されました。さらに、掛緒（壁に掛けるための紐）が切れているため、展示に適さない状態でした。

《修理の内容》

本紙を清掃し、虫食い穴をふさぎました。今後の剥落防止のために、着色部分には剥落止めの膠溶液を塗布しました。裏打ち紙を張り替え、裏打ち紙と裂の厚さを揃え、折れ防止としました。

裂の虫食い穴や切れていた掛緒も修理され、再び掛幅装に仕立てられました。また、巻き収めた際の資料への負担を少なくするため、太巻き芯を新調しました。保存環境を整えられた本資料は、適宜公開・活用を進めていきます。

活かし、伝える

江戸時代に広川町で出土 銅矛の里帰り

本市が寄託を受けている銅矛2口が広川町古墳公園資料館「銅矛里帰り展」（11月19日～12月10日）で公開されました。

それぞれの所有者は秋葉神社（榎原町）と矢倉八幡宮（田主丸町）です。江戸時代、元禄10年（1697）に広川町の天神浦堤・田代堤より、合計18口の銅矛が溜池築造の際出土



現存する3口が一堂に会した

し、久留米藩領内の各神社に奉納されました。銅矛は、弥生時代後期の中広形銅矛で、現存を確認できたのは上記2口と高良大社所蔵の1口のみです。同展では3口揃ったの里帰りとなりました。

秋葉神社には文政8年（1825）に天神浦堤出土の銅矛、矢倉八幡宮には天保2年（1831）に田代堤出土の銅矛が奉納されたことが、それぞれの箱書き裏に記されています。

箱書きも、出所伝来が分かる貴重な資料として、銅矛とともに展示公開されました。



(右) 秋葉神社所蔵
(左) 矢倉八幡宮所蔵

久留米市では数多くの戦争関連資料を所蔵しています。例年、学校や地域団体から、平和学習や戦争体験の講話等で資料を活用したいとの要望を受け、資料の貸し出しを行っています。

今年度は、核兵器の恐怖や悲惨な戦争体験の風化防止を目的とした「くるめ愛と平和の祭典・ピースフルくるめ」の一環として行われたイベント「第30回平和を語る夕べ」に、千人針や防空頭巾、焼夷弾の破片などを貸し出しました。こうした活用は、市民の方に戦争の恐ろしさや平和の尊さを伝える大切な機会となっています。



焼夷弾の破片
昭和20年（1945）8月11日の空襲の際に焼死した男性の頭部から発見されたもの

海外から調査訪問

～陸軍第18師団の研究とその経緯～

ノースウェスタン大学歴史部大学院生

リン・シーミンさん

シンガポール人のリンさんは現在、陸軍第18師団の歴史をテーマとする博士論文に取り組んでいます。第18師団は久留米市に司令部が置かれ、第二次世界大戦では東南アジアに侵攻し、シンガポールを占領しました。

2023年7月、久留米市内に伝わる第18師団の資料を調査するため、リンさんは文化財収蔵館を訪れました。

——第18師団を研究しようと思ったきっかけは？

第二次世界大戦で多くの犠牲者が出たシンガポールにとって、第18師団による侵攻は歴史的に重要な出来事でした。シンガポール人はこの歴史を覚えています。70年以上の年月を経て、現在、シンガポールと日本は友好関係を保ち、特に若い世代は日本の文化に興味を持っています。

私は大学の卒業論文執筆の際、元日本兵の回想録を読み、シンガポールに来た日本兵についてもっと調べたくなりました。彼らの故郷や戦後の生活、戦争に対する考えにも関心があります。戦後、シンガポールを訪れたことはあるのでしょうか。博士論文では、元日本兵の経験が戦後の日本と東南アジアに与えた影響について、第18師団を中心に研究を進めています。

——日本とは以前から縁があったそうですね

日本に関心を持ったきっかけは、多くの東南アジアの若い世代と同じくアニメやマンガ、そして日本の食文化でした。2012年に初めて、友人とともに

日本を訪れました。美しい景色をたくさん観て、親切な人々に会い、今でも感謝しています。それ以来、何度も日本を訪れ、各地を旅しました。2017～2019年には、北海道で英語教師として勤めました。それらの経験を通して、日本の歴史、政治や経済などについて、より学術的な見地から興味を持つようになりました。

——久留米市を訪れ、現地を調査した感想を教えてください

直前に東京に滞在していたこともあって、久留米市はとても穏やかな土地柄だと感じました。市内には1945年以前の日本軍、第18師団の活動に伴う記念碑が多く残されており、非常に興味深いです。外国人にはまだあまり知られていませんが、歴史の魅力が詰まった地域だと思います。

今回は短い滞在でしたが、久留米の郷土史、経済、文化についてもっと学びたいです。また機会があれば、久留米市を訪れ、元日本兵のご家族と話をしたいと思っています。



2023年7月にリンさんが撮影した写真。左は研究テーマである第18師団の記念碑。右は「散歩中に撮ったお気に入りの写真です。」とのこと。

久留米藩御用絵師の絵画を展示 展示担当者より

令和5年10月21日(土)から令和6年1月15日(月)まで、有馬記念館にて、企画展「故事人物を訪ねる―久留米藩御用絵師の絵画からIII―」を開催しました。本展では、久留米市が所蔵・保管する資料から、久留米藩に仕えた御用絵師・三谷家の絵師たちが手掛けた故事人物画21点を展示しました。

会場には、習作(練習として描かれたもの)や、本制作前の下絵のこと)のほか、中国ゆかりの人物や日本の武将を題材とした掛け軸を揃えました。表現方法の違いを見比べられるよう、違う絵師が描いた、同じ画題の作品を並べて展示する箇所も設けました。令和6年の干支である龍が描かれた掛け軸は、目玉作品として、ポスター・チ



展示風景

ラシ、会場配布のリーフレット、有馬記念館公式フェイスブックなどを彩りました。

掛け軸を展示するポイントとして、資料同士の間隔の空き方があります。資料が単体か、複数で1セットかで、間隔を一定にするのか、変化をもたせるのかを決めています。また、解説文パネルを含めたレイアウトや、画題の違いによって調整することもあります。

今回は、一つの展示ケース内で、単体の資料同士の間隔をすべて同じにし、対幅の資料は狭くしました。別の展示ケースでは、三幅対の資料のまとまりを出すために、間隔を調整しました。この三幅対は鮮やかな色彩がされているため、近づいて見たときに、それぞれが最も美しく見えるような配置にしました。鑑賞の際は、展示品の周りの空間にも注目してみると、違った見方ができておもしろいかもかもしれません。



作品を掛けた後は、展示ケースの外から見て、作品同士の間隔の調整を繰り返す

■ ご相談ください

久留米市では、古文書、古記録、古写真、書画、陶磁器などの美術工芸品や、民俗資料などを「文化財収蔵資料」として収集しています。対象となるのは、久留米の歴史文化に関わるもので、久留米市文化財収蔵資料審議会で定めた収集方針に基づき、受け入れを行っています。

今後、次のようなことがありましたら、一度ご相談ください。

- ・先祖から伝わった古い書類や写真、道具などがある
- ・片付けをしていたら、古いもの(古文書、古美術品など)が出てきた
- ・古い書類や骨董品の保管について心配事がある
- ・濡れたり汚れたりした古いものの取扱いについて知りたい

古いもので判断に迷ったときには、廃棄する前にご相談ください。また、ご自宅での歴史的な資料を保管していただく方法についても、ご不明なことなどがありましたらお尋ねください。

先人たちが紡いできた地域の歴史を後世に伝えていくためにも、皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

【編集後記】

令和5年度も、市民の皆様を中心に多くの資料が寄贈されました。今年度は、江戸から明治時代の古文書類と、戦争関係資料としての写真や絵はがきが多かった印象です。特に写真は、当時の状況や雰囲気わかりやすく、今後ますますその重要性が高まるのではないかと感じています。こうした思いもあり、近年は写真の収集にも力を入れています。今を生きる私たちが、記録や思い出の一コマとして撮った写真が、貴重な歴史資料となる日が来るのもそう遠くないかもしれません。

『収蔵館ニュース』第20号

発行年月日 令和6年3月31日

編集・発行 久留米市 市民文化部 文化財保護課
久留米文化財収蔵館
〒830-0037
福岡県久留米市諏訪野町 1830-6
電話・FAX 0942-38-6194
E-mail bunkazai@city.kurume.lg.jp

「収蔵館ニュース」前号(第19号)はこちらからご覧いただけます。

久留米市ホームページ ➡ <https://www.city.kurume.fukuoka.jp> > 「観光魅力・イベント」> 文化財・歴史 > 刊行物の案内 > 【配布物】収蔵館ニュース